

Asia Week 2025 Report

企画名 Title	The 5th KYUSHU-SNU JOINT SYMPOSIUM (第5回九州大学・ソウル大学校ジョイントシンポジウム)
開催日時 Date & Time	2025/11/4(Tue) 9:30~16:30
参加人数 Number of Participan ts	現地/In-person: 52 オンライン/online: 0 (In-person only)
開催概要	
主な概要 Outline	<p>令和7(2025)年11月4日(火)、九州大学伊都キャンパスにて、韓国・ソウル大学校(SNU)との共同による「第5回 KYUSHU-SNU JOINT SYMPOSIUM」が開催されました。今年のテーマは「Enhancing Our Well-being in Harmony with Nature (自然と共生する社会を目指して)」。都市・農村・自然の各領域における持続可能性と人間の幸福をめぐる議論が、両大学の研究者によって熱く交わされました。</p> <p>Plenary Session 総会 開会挨拶 九州大学の石橋達朗総長とSNUのKIM Taekyoon理事が登壇し、両大学の協力関係のさらなる発展への期待が語られました。</p> <p>イントロダクション Q-AOS(九州大学アジア・オセアニア研究教育機構)の田中俊徳准教授が登壇し、Q-AOSとSNUのGraduate School of Environmental Studiesとの連携を紹介。</p> <ul style="list-style-type: none">● 20世紀の経済成長の裏で進行した自然環境の破壊● 現在進行中の「第6の大量絶滅時代」への警鐘● 保護区外も含めた包括的な自然保全の必要性を強調 <p>基調講演</p> <ul style="list-style-type: none">● 矢原徹一名誉教授(九州大学) 演題:「Towards a New Future in Harmony with Nature」 → 自然との調和社会の構築に向けた5つの指針を提案● AN Donghwan 理事・教授(SNU) 演題:「Strategies for Rural Renewal in the New Era」 → 気候変動と人口減少に直面する農村の再生戦略を紹介し、持続可能な地域づくり

の重要性を訴える



集合写真

Parallel Sessions 分科会

午後には、本学と SNU 研究者の統括により、3つの分科会が並行して開催されました。

Session 1: Green Infrastructure in Urban Areas

Organized by:

(Kyushu) 人間環境学研究院 DIVIGALPITIYA Prasanna 准教授

(SNU) Prof. GIM Tae-Hyoung, Graduate School of Environmental Sciences



SNU

左 : Prof. GIM Tae-Hyoung

右 : Prof. KANG Junsuk

九州大学

DIVIGALPITIYA Prasanna 准教授

Session 2: New Ruralism climate change adaptation and sustainable rural model

Organized by:

(Kyushu) 比較社会文化研究院 渡部 哲史 准教授

(SNU) Prof. SON, Yonghoon, Graduate School of Environmental Studies



集合写真

左から 5 番目：九州大学・渡部 哲史 准教授

右から 3 番目：SNU・Prof. LEE In-Bok

右から 4 番目：SNU・Prof. AN Donghwan

右から 5 番目：SNU・Prof. SON, Yonghoon

Session 3: Biodiversity Conservation in Natural Areas

Organized by:

(Kyushu) 比較社会文化研究院 藤岡 悠一郎 准教授

(SNU)Prof. SONG, Youngkeun, Graduate School of Environmental Studies



集合写真

左から 3 番目：九州大学・藤岡 悠一郎 准教授

右から 2 番目：SNU・Researcher Ms. KIM, Gawoo

右から 3 番目：SNU・Prof. SONG, Youngkeun

Closing Session 総括

パラレルセッション終了後には、各分科会の代表者による報告が行われ、成果と今後の課題が共有されました。その後、参加者全体で議論を深める貴重な機会となりました。

閉会の辞：

本学岩田理事から閉会の言葉が述べられ、両大学の連携が今後さらに広がり、持続可能な社会の実現に向けた共同研究が加速することへの期待が語られました。

生物多様性保全ゾーンツアー

Closing Session 終了後には、九州大学伊都キャンパス内にある生物多様性保全ゾーンの見学ツアーが実施されました。案内役を務めたのは、植物生態学の第一人者である矢原徹一名誉教授。参加者は、教授の丁寧な解説のもと、キャンパス内にある自然環境がどのように保全され、教育・研究に活用されているかを実際に体感しました。



ツアーの様子



右：矢原名誉教授